

新潟県知事選挙の総括

原発再稼働反対の民意を反映した県政運営を求めて

立石雅昭 (新潟大学名誉教授)

まことに残念ながら、六月十日投票でたたかわれた新潟県知事選挙で、自公支持の花角氏が当選。投票率は大方の予想に反して二〇一六年の知事選よりも五割以上あがったのですが、自民党の業界締め付けと、公明党などの組織動員による期日前投票の差を埋められませんでした。野党と市民の共同候補・池田ちか子さんへの全国からの支援に心から感謝するとともに、ご期待にそえなかったことをお詫びします。

知事選結果で特徴的なことは、原発立地自治体である柏崎市、周辺自治体の長岡市や上越市、更に旧巻町を含む新潟市西蒲区では、野党と市民の共同候補池田ちか子さんの得票が花角英世氏を上回りました。

事前の新潟日報アンケート調査では、「原発再稼働反対」、

「どちらかと言えば反対」が六五割に達していました。投票日のNHK出口調査でも七三割の方が「再稼働反対、どちらか」というと「反対」と表明されていたのです。

一方、新潟日報の出口調査では「再稼働に反対」「どちらか」というと「反対」はそれぞれ、四三・四割、一六・九割に上っています。このうち、六三割の方が池田さんに投票

する一方、三四割の方が、花角英世氏に投票したと回答。こうした県民世論は、新潟における「原発の危険に反対する」あるいは、「脱原発・反原発」の積年の運動、とりわけ、福島原発事故以降の粘り強い運動が県民に広く受け入れられてきた成果といえます。

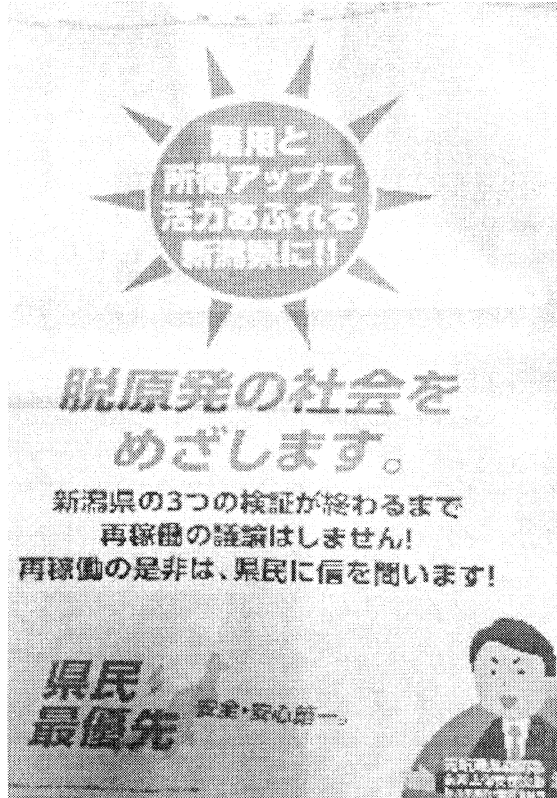
花角陣営は、当初、知事選争点から原発再稼働問題を避けようとしたが、こうした県民世論を反映して、終盤、再稼働問題に関して、先の米山知事の政策を受け継ぐと表明。投票日に長岡地域で配布

された新潟日報一面の広告(写真参照)では「脱原発の社会をめざします」「新潟県の3つの検証が終わるまで再稼働の議論はしません」「再稼働の是非は、県民に信を問います」とうたいました。当選後の初登庁の際に行つた花角知事は記者会見で、「県独自の3つの検証の継続、検証結果がまとまった段階で判断し、再稼働への見解をまとめて、県民に信を問う」と発言しています。

さらに知事就任の記者会見の「知事一問一答」では「在任中は再稼働はない」と明言しています。しかし、その後、県選出国会議員団との面談では、「条件付きで再稼働もありうる」と発言されたことも報道されています。七月下旬には県議会が始まります。ここでどのように県政運

営を進めるのが問われるでしょう。秋には、新潟で科学者会議原発問題委員会の全国集会や原住連の全国交流集会が開催されます。それらの集会を開催するに当たって地元として、これまでの運動をどのように受け止め発展させるか、とりわけ、さまざまな住民団体による共同を積み重ねてきた柏崎市や周辺自治体での運動に学んで、県都新潟市でも地域住民主体の運動の広がりを構築する努力が求められます。

私としては、新潟県の「原発の安全管理に関する技術委員会」や「柏崎刈羽原発活断層問題研究会」で、柏崎刈羽原発の安全性に関する、徹底した「科学的審議」を求め、県民の安全/安心の思いに込めていかねばなりません。十一月十・十一日、柏崎市で開催する原住連の全国交流集会では、全国各地での運動の経験・教訓を持ち寄り、原発の危険に反対し、「原発ゼロ」をめざすたたかいの展望を切り拓きましよう!



新潟県知事選投票日当日の「新潟日報」の花角陣営の一面広告

右下隅には「元新潟県知事 前海上保安庁次長 佐渡生まれ・新潟市育ち」とある

してきます。しかし、その後、県選出国会議員団との面談では、「条件付きで再稼働もありうる」と発言されたことも報道されています。七月下旬には県議会が始まります。ここでどのように県政運